

S-23
No. 59 ~ 66

「Ⅲ」6月2日(木) 長津田の歴史の名残を巡る

集合；JR横浜線「長津田駅」改札口10時厳守)

(1) 行 程；「長津田駅」→御野立所→大石神社・長津田上宿常夜灯→後谷戸→伯楽地藏→天王社→福泉寺→王子神社→お七稲荷→大林寺→下宿常夜灯→瑞流院→「長津田駅」。

(2) 食事場所；長津田駅前「」。TEL；045——。

歴史の残る街長津田

長津田は江戸時代から東海道の脇往還大山街道を走り、宿駅に指定され、往時は5、60軒の旅籠や商家が建ち並び街道を行き交う多くの人々で賑わったと言う。路傍に残る石碑や野仏、常夜灯などに往時を偲ぶ事が出来る。

1・旧大山街道・大山詣(大山海拔1252m・雨夫利山・雨降山・阿降利神社・奥之院自然石尊を僧徒や修験者が管理したのが始まり・6月28日

から7月18日に至る盆山に集中的に行われた)

大山信仰は、富士信仰と同様の山岳信仰である。南北朝以後、修験の道場となり、山伏が先達(セダツ)となる講が形成された。江戸時代、阿降山大山寺が積極的に布教を心掛け、祈祷札を村々に配布し、信者から初穂料や祈祷料をとる御師檀廻制度(オダツ・師僧と旦那、寺僧と檀家)が生まれ、相模・武蔵から関東一円にかけて大山講が成立した。江戸から18里(約70km)の距離にあり、見物遊山の流行にのって、江戸で特に大山詣でが盛んになり、「大山参り」の落語にもなった。江戸結成大山詣で講は、隅田川両国橋下で水垢離をとり、白衣に着替え、各人が大願成就と墨書した小太刀を携えた。江戸→東海道平塚→伊勢原→大山表道登山の他、世田谷→溝の口→厚木→大山登山ルートなどよく利用された。大山麓大滝で再度水垢離、奥の院へ、本尊へ持参した小太刀を奉納し、既に奉納されている別の小太刀を持ち帰り、神棚へ供えた。土産には、名物の挽物細工の櫛など買われた。江戸時代富士山は女体であり、大山は男体であるとされ、富士詣でと大山詣では一連のもととされ、両方へ詣でるも

のとされていた。

2・御野立（オノタテ）跡の碑

御野立て跡は、昭和天皇が摂政（セツショウ・君主に代わって政務を行う）の時、陸軍大演習を総監した場所。周辺の大石神社や王子神社には、樹齢300年を超すモミやシラカシの古木・大木が残る。桜の名所でも有る。

3・大石神社（祭神、大石大神、神明大神、稻荷大神・例祭7月24日・境内への坂道途中、上宿常夜灯が有った・モミ、シラカシ市指定名木・桜の名所）

創建年代不詳、新編武蔵風土記稿に「元、長津田村大石権現社と称し、※在原業平朝臣（アリワノナヒアラソ）朝臣は敬称・825～880）を祀ったと伝う」神体は大きな石で昔は相州にあったが、武蔵、相州両国の百姓が各々の帰属を主張し争いとなった。然し神意により遂に武蔵に鎮座したと言う。元禄7年（1694）領主岡野平兵衛房恒等社殿修復、宝暦2年（1752）社殿造営の旨、現在の棟札に記録あり、大正12年神明社、稻荷社を合祀、同年9月、関東大震災で本殿崩壊したので宮内省より御用材を賜り再建。

※在原業平朝臣；平安初期の歌人。六歌仙（平安期6人の歌人；在原業平・僧正遍昭（ウジヨウヘンジヨウ）・喜撰（キセン）法師・大伴黒主（オホトモノクロヌ）・文屋康秀（フミヤノヤスヒデ）・小野小町）・三六歌仙（和歌に秀でた人、後の句数36の連歌）の一人。阿保親王の5子。世に在五中将・在中将と言う。「伊勢物語」主人公と混同され、伝説化して、容姿端麗、情熱的な和歌の名手、色好みの典型的美男とされ、能楽や歌舞伎・浄瑠璃の題材ともなった。

4・上宿常夜灯（京都寄・総高240cm・天保14、1843秋葉山講中建立と言う・宿場町だった長津田の歴史を象徴するもの）

5・後谷戸

6・伯楽谷戸のお地藏さま（林地蔵）

この谷戸の林家は昭和初期まで蹄鉄打ちの仕事をしていた。このお地藏様はこの谷戸周辺に住む念仏講の女性達が宝暦年間（1751～64）に建立し、社交の場でもあった。

7・天王社

8・福泉寺（真言宗高野山派・恩田徳恩寺末・薬王山医王院・本尊，薬師如来，元不動明王ともある
・弘法大師関東88ヶ所第65番・関東91薬師第17番・武相寅薬師第23番札所）

開山は僧栄存と言う，文禄から慶長の頃（1592～1615）。長津田地頭岡野房恒が王子権現を勧請しその別当として建立。江戸時代には領主岡野家の祈願所として、領主の庇護の下、田畑山林寄進を受け、又、徳川幕府から御朱印4石5斗を賜り、祈祷所として栄えた。現本堂昭和45年再建。客殿は平成5年完成。

古碑群は、古くは元禄（1688～1704）年代より地域の信仰の場として、庚申塔・道祖神・大山講・地神尊信仰して、天下泰平・五穀豊穰・家内安全・等を願い・祈り、代々引き継がれて今日に至る物です。

仏足石（フツクセキ）跡はお釈迦様の足の裏相跡で、昔お釈迦様が人々の前で説法された時、多くの人々に自分の姿が見える様に、岩や石の上に立ってお話しされました。説法が終わりお帰りになった後のも石の上に足の相が残っており、人々は足跡をそのまま石に刻み有りがたく拝んでおりました。その後数百年を経て、お釈迦様の像が作られる様になたつと言う。紋様にお釈迦様の慈悲の心と、尊い教えがこめられています。

9・王子神社（長津田鎮守・祭神伊邪那岐命、速玉男命歳旦祭1月1日・節分祭2月初日曜、祭大礼4月29日、大抜祭6月末日曜・七五三11月・モミの木樹齢300余年市指定名木）

江戸時代に熊野新宮から若一王子権現（ニヤクイオウジ＝摂社の諸王子中1位・若宮一王子の略）を勧請して創建したと言う。此の神社の祭りには、茅の輪くぐりの催し残る。6月の晦日（ミカ）夏越しの祭りで、参詣者はこの輪をくぐると災厄（サヤク・災い）を逃れる事が出来ると信じられている。

10・お七稲荷（福寿稲荷）

八百屋お七事件の際、旗本岡野家3代目が盗賊追捕役であったことなどから同地に集められたと言う。

11・大林寺（曹洞宗・慈雲山・本尊，釈迦如来・平成20年本堂等建て替え完了・岡野家、初代引田天功等眠る）

古来より火難の多い寺で記録に残るだけでも，享保19年（1734）・文政2年（1819）・大正15年（1926）と三回もある，その為現在の本堂，客殿庫裡，開山位牌堂全て鉄筋コンクリート造りで

ある。幕末まで長津田を領していた旗本岡野家の菩提寺で、開基は岡野江雪融成と言う。本堂裏手奥まった所に幕末の歌人で教育者の関根範十郎信友の墓・山門左手地藏堂内に鎌倉期板碑（緑泥片岩・嘉元元年＝1303）・石碑（正面に南無阿弥陀仏、右側面に文政6癸未（ミヅノヒツヅ）歳8月28日、左側面に徳本講中）とある。

徳本上人の遺徳と念仏を信仰した講中人の名号碑。

12・下宿常夜灯（江戸寄・総高210cm・文化4年1817宿中大山講中建立と言う）

13・瑞流院（曹洞宗大林寺末、元天台宗・向陽山・本尊、観世音菩薩、旧釈迦如来事情あり昭和初期変更）

慶長年間（1596～1615）に大林寺3世顕堂長察和尚中興、現、山号寺号に改められた（元天台宗長鷲山長鷲寺）。観世音菩薩像は元地頭岡野家の守り本尊であったが同家江戸屋敷の近隣で火災があった折、その加護で類焼を免れた。そこで岡野家では「火ぶせの観音」として当時この寺にあった観音堂に祀った。

第59回行振案内図

